

消火器取扱競技要領

1 編成及び使用器具

- (1) 編成は、2名をもって1組とする。
- (2) 服装は、ヘルメットに自衛消防隊の制服又は長袖トレーニングウェア上下とし、靴は、運動靴又は作業靴とする。
- (3) 出場者は、チーム（事業所）名を明示したゼッケン（縦20cm×横30cm）を胸と背中につけること。（チームで準備する。）
- (4) 使用消火器は、水消火器2本とし、防火安全協会事務局で用意する。

2 点検・準備

- (1) 競技は、男・女・ペアのうち、2チームが同時に実施するものとする。
- (2) 出場チームは、最初のチームを除いて、前出場チームが競技を終了するまでに、自主的に消火器を点検し、所定の位置に設置し、待機位置にて待機する。
- (3) 出場チームは、指揮者審査員（以下 $\textcircled{\text{指}}$ 審査員）の指示により、集合線に整列し自主整頓後、待機する。（受礼者は、受礼位置につく。）
- (4) 進行係は、マイク放送で出場チームを紹介する。
- (5) マイク放送の後、指揮者は受礼者の前方5mに至り、敬礼を行い、開始報告をし、再び敬礼後、元の位置に復す。（受礼位置は、コース図参照。）
- (6) 開始報告は、「〇〇会社自衛消防隊、ただ今から消火器操作を行います。」とする。

3 操作要領

(1) 操作開始

ア 指揮者は、 $\textcircled{\text{指}}$ 審査員の笛の合図により、「操作始め」と号令する。

イ 隊員は、「よし」と合図し、操作を開始する。

(2) 指揮者

ア 直ちにコースを通過して電話位置に至り、隊員の「事務所が火事だ。」を確認し、「事務所が火事だ。」と復唱した後、「消火にかかれ。」と号令し、119番通報を行う。

<119番通報要領>

119番受信者の「はい、消防です。」を確認した後、「火事です。〇区〇町〇丁目（〇区〇町〇〇〇番地）、〇〇会社の事務所が火事です。」と伝える。（出火場所は、出場チームの所在地・会社名とする。）

イ 受信者の「了解」で受話器を置く。

ウ 消火器置場に至り、消火器を携行して操作線を越えた地点（両足が火点側に入ること。）で安全栓をはずし、消火器をかまえ、「よし」と合図し、隊員の消火状況を監視する。

エ 隊員の「消火完了」の伝達により、消火を確認して「よし」と合図する。

オ 隊員が消火不能のときは「交替」と号令して消火器で応援消火し、消火が完了したら消火器のノズルをオイルバットからはずし、審査員が赤旗をあげたのを確認して「消火完了」と伝達する。

(3) 隊員

ア 直ちにコースを通過して進入線を越した地点（両足が火点側に入ること。）で、火点を指差し、「事務所が火事だ。」と叫ぶ。

イ 指揮者の「消火にかかれ」を確認した後、「よし」と合図し、消火器置場に至り、消火器を携行して操作線外に進み（両足が火点側に入ること。）、安全栓をはずし、消火器をかまえて「よし」と合図し、放射する。（この時、消火線内に足を踏み入れてはいけない。）

ウ 隊員は、消火が完了したら消火器のノズルをオイルバットからはずし、審査員が赤旗をあげたのを確認して「消火完了」と指揮者へ伝達する。

エ 消火不能のとき隊員は、指揮者と交替し指揮者の「消火完了」の伝達により消火を確認して「よし」と合図する。

4 収納及び終了

(1) 操作員は、消火後、消火器を持って2名同時に操作線まで（火点側）帰り、消火器を足元に置いて自主整頓をする。

(2) 指揮者は、**指**審査員の笛の合図により「終了」と号令し、隊員は「よし」と合図し、消火器を持って回れ右の後、指揮者・隊員の順でコースを戻り、集合線に復し、消火器を足元に置いて自主整頓をする。

(3) **指**審査員の笛の合図で、指揮者の「消火器を持って」、「右向けー右」、「駆け足一進め」の号令により、隊員とともに退場する。

5 その他

(1) オイルバットの大きさは、縦91cm、横64cm、深さ18cmとし、オイルバット内の4箇所筒所に筒状の台を設置し、その上にボールを置く。なお、オイルバットに仕切板を十文字に立てる。

(2) コースは、白線で示し、コースを外れて走行してはいけない。

(3) タイムの測定は、「操作始め」の「め」から、消火を確認して「よし」の「し」までとする。

(4) タイム得点は、基準タイム（40秒）を基準に、1秒につき2点を増減点する。

(5) 同点の場合は、タイムの早い方を上位とする。同点・同タイムの場合は、上位同順位とする。（1秒未満の端数は切り捨てる。）

(6) 競技要領に必要な部分は、消防訓練礼式を準用する。